

第2510地区 第11グループ

2008~2009

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.



# 函館北ロータリークラブ会報

2008~09年度  
国際ロータリーのテーマ

## 夢をかたちに



2008~09年度  
国際ロータリー会長

李 東 建

*D. K. Lee*

山下清司 会長 テーマ

—— 会員相互の協力、助け合い ——



4月8日 函館市環境部 出前講座 小林 文京氏、加藤 晴生氏

## 《第2195回例会》 第37号 4月15日(水)

### 本日のプログラム

#### 地区協議会報告

会長エレクト 弗田 和則 会員

★会 長 山 下 清 司

★幹 事 成 田 豊

例会場：函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151  
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務局：函館市大手町5-10 ニチロビル4F TEL23-3870

た場合、およそ544杯分にもなります。

この量を1年365日で割ると、1日に出るごみの量は、およそ179tです。これは、普通乗用車だと約103台分の重さになります。また、体重が60kgの人で換算すると、2,983人分にもなります。たった1日でこんなにたくさんのごみが出されています。

これから更に、市民みんなでごみを減らす工夫を行っていく必要があります。

(会報担当者：増田 定雄 委員長)

◇ 型 枠 工 事 業 ◇  
株式会社 小 川 建 設

代表取締役 小 川 芳 美

建設業許可 北海道知事 渡島(2) 第1006号  
北海道建設躯体工事業協同組合会員

本 社 〒041-1122 亀田郡七飯町大川3丁目11番29号 TEL 0138-65-6507  
営業事務所 〒041-0801 函館市桔梗町550-6 TEL 0138-47-3166 FAX 0138-47-5234  
E-mail [ogawakensetu@wave.plala.or.jp](mailto:ogawakensetu@wave.plala.or.jp)

(広告掲載：小川 芳美 会員)

函館北ロータリークラブのホームページアドレス <http://www.hakodate-north.org/>

【4月14日現在のアクセス数：7681件(+63件)】

◎ 3月25日出席報告 (柴崎 晃 委員長)

会 員	31名	出席率対象会員	30名
		出席規定免除会員(a)	1名
		出席規定免除会員(b)	0名
当日出席	22名	当日欠席	8名
他クラブ出席	6名	出席合計	28名
出席率	93.33%		

・テレフォンサービス(例会移動案内) 電話 26-3170番

次回・4月22日  
プログラム

早 朝 例 会

於 函館国際ホテル 午前7時～



◎卓話 「ゴミの分別・リサイクルについて」

函館市環境部リサイクル推進課 主任主事 小林 文京 氏  
 〃 主任主事 加藤 晴生 氏

まず始めに、函館市のごみの収集はどのように移り変わってきたのか、収集の歴史を見ていただきます。

昭和40年3月までは、家庭からでたごみは、街の中の決められた場所に設置されていたコンクリートの容器に入れてもらい、馬車でまわって、スコップですくって収集していました。

昔は現在のような使い捨ての物はほとんどなく、鍋やボウルを持って豆腐を買いに行ったり、空きびんを持って醤油を買いに行くなどしていました。着れなくなった服は、赤ちゃんのおしめにしたり、かばんやお手玉を作ったり、最後にボロボロになった布は、乾かして火を起こす焚き付けなどに利用していました。このような生活を送っていた昔は、現在のごみは多く出ませんでした。

昭和40年4月から自動車による収集に変わりました。

平成9年4月からは、増え続ける使い捨て容器を資源として再生するため、市内の一部の地域で、「缶」、「びん」、「ペットボトル」を「資源ごみ」として、試験的に収集が行われ、次の年、平成10年4月からは、函館市内全域で資源ごみの分別収集が始まりました。

そして平成14年4月から、今まで黒い袋などで出していた燃やせるごみが、ピンク色の函館市指定ごみ袋で出すこととなりました。

それでは、ここで皆さんに質問ですが、ごみを分けて出すことを、「分別して出す」といいますが、現在函館市で収集しているごみは、何分別に分けているのでしょうか。

燃やせるごみ、燃やせないごみ、缶・びん・ペットボトル、プラスチック容器包装、粗大ごみ、乾電池の6分別です。

燃やせるごみは、日乃出町にある日乃出清掃工場に運ばれ、850度から950度という高温で焼却処分しています。また、日乃出清掃工場では、ダイオキシンという体に有害だとされている物が排出されないようになっています。

燃やせないごみは、東山町にある七五郎沢廃棄物最終処分場に運ばれて、埋め立て処分されます。

処分場は、第1期埋立地と第2期埋立地があり、第1期埋立地ではもう埋立が終わっています。埋立処分場では、ごみをならして上に土をかぶせ、その日のごみは、その日のうちに土をかぶせて臭いがしないようにしています。このような、ごみと土を重ねて層にしていくサンドイッチ方式で埋め立てを行っています。また、汚れた水が地下や周りに漏れないように、遮水シートやフェルトを敷いて、水を通さないようにしています。

ここは、平成36年度くらいまで使用する予定ですが、ごみがたくさん出ると、予定よりも早くいっぱいになってしまいます。もしいっぱいになってしまったら、新しい処分場を探すことは、大変難しいことです。ですから、みんなでごみを少なくする工夫をして、埋立するごみの量を減らしましょう。

3つ目は、缶・びん・ペットボトルです。

缶・びん・ペットボトルは、七五郎沢廃棄物最終処分場の敷地内にあるリサイクルセンターに運ばれて、スチール缶・アルミ缶・ペットボトル・びんにそれぞれ分けられ、再生工場に運ばれます。

4つ目の分別は、プラスチック容器包装です。

プラスチック容器包装は、リサイクルセンターのとなりにある民間施設の函館プラスチック処理センターに運ばれて、圧縮・梱包を行って再生工場に運ばれます。汚れたものや違うごみは、手作業で取り除いていますので、とても大変な作業です。きちんと分別し、汚れをとることが大切です。圧縮・梱包されたプラスチック容器包装は、再生工場では油に戻し燃料として使われたり、公園の杭などのプラスチック製品に生まれ変わります。

次に粗大ごみですが、粗大ごみは今までの4つの分別とは違い、電話での申込みが必要となります。申込みして、処理券の金額や収集日を確認し、指定された日に粗大ごみの処理券を貼って出します。

最後に乾電池です。乾電池は、市の公共施設や町会館、学校などにある乾電池回収箱に入れます。

乾電池は、北見市留辺蘂町にある、イトムカ鉱業所というところで亜鉛・マンガン・鉄などの資源として生まれ変わります。

平成19年度1年間に出た函館市のごみの量は、65,275 tにもなります。もし、学校のプールに入れ